

ふたえ里山整備協議会活動概要

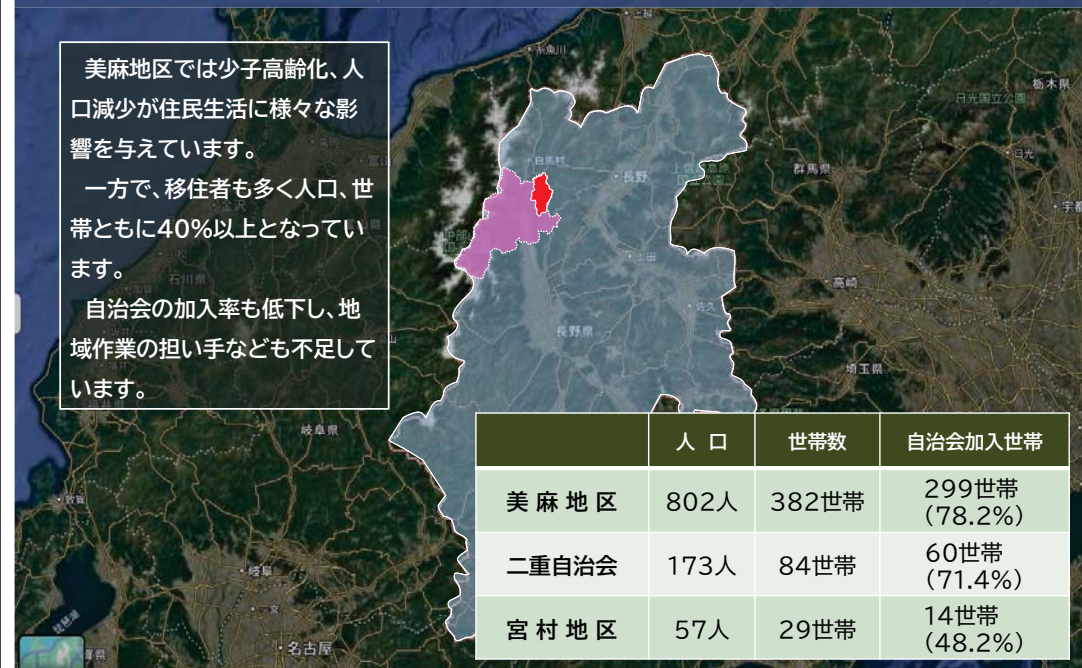
2025年

私たちの活動地域

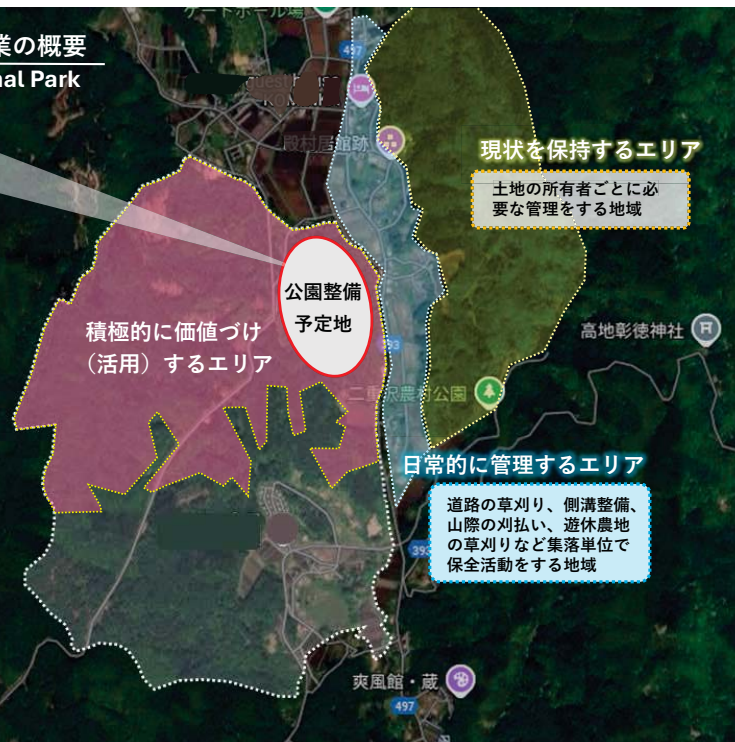
美麻地区では少子高齢化、人口減少が住民生活に様々な影響を与えています。

一方で、移住者も多く人口、世帯ともに40%以上となっています。

自治会の加入率も低下し、地域作業の担い手なども不足しています。



宮村地域自然公園整備事業の概要 Miyamura Natural Regional Park



公園整備の状況 2024.06

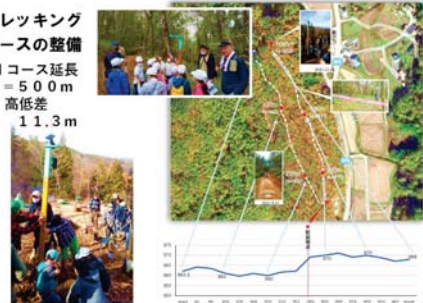


活動1年目



活動2年目

トレッキング
コースの整備
■コース延長
=500m
高低差
11.3m



②里山整備活動
公園整備を通じた里山整備
活動を実施した。

■伐採した木を使った
ドームテント製作
ワークショップを実施



活動3年目



※地域材利用



※観光利用



子ども会が中心で行う正月の伝統行事と連携し、遊休農地の
の萱刈りを行い、集落内の森林化の防止に努めています。



活動4年目～(ボランティアとの連携【開かれた里山づくりに向けて】)



ワークキャンプやワーキングホリデーのプログラムと連
携して、全国から集まったボランティアに公園のウッド
デッキづくりに協力いただきました。



活動4年目～(開かれた里山づくりに向けて)



【開かれた里山づくりに向けて】 里山からつくる(仕事と役割)

○里山2×4づくり

自分たちの事業で使う木材は、できる限りホームセンターから買うのをやめて 地元の木に置き換える活動を進めています。

地域材は、ホームセンターで販売している外材より値段が高いため、こだわりのある人にしか使ってもらえません。このため、公共性の高い場所で使っていただけるよう行政などに提案しています。



○価値なく使われない木を使って
みる
ドイツトウヒは、むかし植林が推奨されて、地域の山にたくさんありますが、使い道があまりなく、切ってもお金にはならないそうです。
木の特性を生かした商品の試作をしてきました。

【開かれた里山づくりに向けて】 里山からつくる(仕事と役割)

○地域材の活用から体験イベントをつくる
移住された方を中心に住宅のDIYも自分でやってみたいというニーズが増えています。新たに住民となった方に里山整備活動への参加の入口として、仲間づくりの場を提供しています。



コミュニティ・スクール活動の一環として

美麻小中学校と連携して、2年間森の授業を実施



私たちは、子ども達を活動の中心に据えた事業を行っています。
スクールパートナーズ(学校支援ボランティア)として、学校の授業や課外活動を通じて里山整備の普及啓発活動を実施しています。